



THIS TIME SHOP

雪国特性の4WD車と車両の進化に合わせた車検棟を新築
作業効率と安全性を高めて
経営品質向上を推進



新潟日野自動車株式会社 長岡営業所

新潟県長岡市片田町字西荒田 1004-1

昭和14年(1939年)、前身となる新潟自動車投資株式会社として設立された新潟日野自動車株式会社(佐藤純一代表取締役社長)は新潟県内に本社を含め7箇所の拠点を置く、日野自動車の販売会社です。また、同社は新潟トヨタグループの一員として、盤石な経営基盤をベースに地域社会から高い評価を得てきました。日本有数の豪雪地域である新潟県において、地域社会に不可欠な物流インフラを止めることがないよう、長年蓄積したノウハウを基にトラック・バスの販売、およびサービスを提供することで、お客様から絶大な信頼を獲得してきました。

2023年3月13日、同社の長岡営業所では、新たに検査ラインと車検整備を行う作業場を新設し、本格稼働をスタートさせました。お客様の多様なニーズと社員の安全、生産効率を高める様々な取り組みが実現しています。

POINT 1 入庫増大でサービス部門を拡張 最新設備で生産性を高める



従来の整備工場と(左)と新設の車検整備棟(右)



長岡営業所全景。整備工場は手前側3ストールまでが一般整備、その奥の2ストールが車検整備のビット。一番奥は旧検査ライン。

創業から84年を迎える同社において、平成4年(1992年)に開設された長岡営業所は比較的若い拠点です。従業員数17名のうちメカニックは13名。平均年齢30代後半というメカニックは象徴するように、営業所も若いスタッフで活気づいています。

長岡営業所の穂刈憲一工場長は「かつて、長岡営業所のサービス売上は多くありませんでした。その後シェアを拡大することで着実にお客様を増やし、サービスの成長につなげてきました」と同営業所の歩みを述懐します。敷地面積5,863㎡という広大な敷地に検査ラインを加えた全6ストールの作業場は、2022年度実績で入庫台数が5,400台、このうち検査台数は750台を数えるなど、サービス部門の拡大が続いてきました。こうした急速な入庫増によって作業場が手狭になるとともに、設備の老朽化なども加味され、今般車検整備棟の増新築となりました。

なお、従来使われていた検査ラインは特定整備認証における電子制御装置整備点検作業場としてエーミングなどに使用しています。エーミングの作業件数はそれほど多くはないものの、しっかりと自社で対応できるよう体制を整えています。



旧検査ラインは現在、電子制御装置点検整備作業場として使用(建物右側)。



エーミング作業は内製化。

POINT 2

4WD 車の増加に対応 検査作業の軽減を進めた検査ライン

新たな作業場は車検整備をメインに使用する目的として建設、検査ラインと車検整備を行う 2 ストールに最新設備を導入しました。日野自動車の基幹システム HITOSS (Hino Total Sales System) と連携する検査ラインに検査車両撮影システム CS-Photo を導入、コンプライアンス対策をさらに推し進めました。また、雪国ならではの事情として 4WD 車の保有が多いことで、8 本のローラを設けた特注仕様のボギーローラ (ホイールベース 4000mm 対応) を設備しました。30 年前の設備時には考えられなかった 4WD 車の増加や、クルマの進化に対応するよう設備投資の戦略的な検討が行われています。

同営業所の検査員の方からは「今までフロアリフトが導入されていなかったもので、検査ラインも受け入れのストールでも楽に下回りが見られるようになりました」と作業負担の軽減が劇的に改善されたとの喜びの音がきかれました。



新設の検査ライン。ボギーローラは特注。



画像処理方式ヘッドライトテスター。モニターは 44 インチを設備。



架台に設置した CS-Photo のカメラ。



実際の検査の様子。最新の検査機器で作業効率を向上。



検査ラインにフロアリフトを導入。

POINT 3

4 軸車とロングトレーラーの増加に対応した 車検整備ストール



新設の車検整備ストールは拡大する物流の需要と高度化するトラック・バスに対応した。

車検整備の 2 ストールは新潟日野仕様となる 4 柱仕様のフラットツインリフトを設備しました。近年大型車は 4 軸の車両が多くなっていることを背景に、それに対応した設備としており、前後以外の 2、3 本目のリフトが可動式となっていることで、ホイールベースの異なる車両に対して自由に可変できることが可能です。

また、近年はトレーラーの全長が長くなる傾向にあり、従来工場でははみ出してしまうこともありましたが、新設の作業場では、こうした点を改善し、よりフレキシブルで品質の高いサービスが行えるようになりました。

この他、安全性については自動車メーカーが特に力を入れている課題であることから、整備作業の安全性とともに生産性向上を両立させ、まさに時代が要請する働き方改革を実現する作業場を実現しています。このような職場環境は若い人材が入社を希望する優先順位の高い条件となっており、同社としては今後のリクルート活動にも期待が膨らみます。



車検整備ストールにはフラットツインリフト (新潟日野仕様) を設備。



長岡営業所はバスの入庫が多いのが特徴。



フラットツインリフトを使用したバスの整備。